

小学校音楽でのよこ笛導入の社会実装モデル ー器楽教育の多様化と地域文化継承の両立ー



【中野キャンパス】人文社会学部 教育学科 小学校・特別支援コース 助教

新保 江美 Shimbo Emi

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 小学校音楽・よこ笛・文化継承・音楽教育・器楽教育



研究の概要

SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに

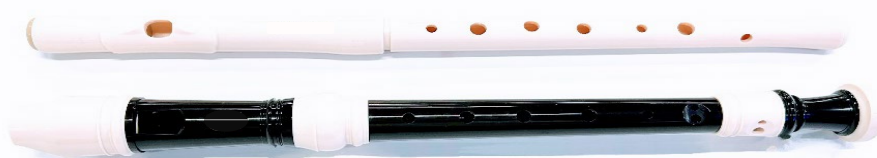
SDGs 目標 11 : 住み続けられるまちづくりを

地域文化の継承危機と学校器楽教育の画一化が進む中、教育と文化の課題を同時に解決する実践モデルの構築が求められている。本研究は、教育用よこ笛（ファイフ）を小学校音楽に導入し、児童の音楽的理解を深めるとともに、器楽教育の多様化と地域文化継承に資する持続可能な教育システムの構築を目指す。

よこ笛は神事や祭囃子など日本の生活文化に根ざした楽器であるが、現行の小学校音楽では篠笛の紹介にとどまり、演奏体験の機会は乏しい。リコーダーとファイフを併用して学ぶことで、児童は楽器構造や音色の違いを体験的に理解できる。また、よこ笛は共通の発音メカニズムを持つため、一種類を習得すれば他種への移行が容易であり、学習負担も小さい。ファイフはリコーダーと同素材・同価格帯で導入しやすく、他種の教育用楽器として、篠笛や能管も存在する。

学習指導要領が掲げる「生活や社会の音楽と豊かに関わる資質・能力」の育成に対し、よこ笛は具体的な教材となり得る。小学校段階での基礎的体験は、中学校で扱われる篠笛学習の円滑化にもつながり、さらに地域例祭の担い手不足といった社会的課題にも寄与する。

本研究では、(1) 教育用よこ笛教材パッケージの開発、(2) 教員向け指導法の体系化と研修、(3) 学校・地域・産業界を結ぶ連携プログラムの設計・評価をおこなう。これにより、器楽教育の多様化、地域文化振興と人材育成、教材開発の新たな機会を創出し、教育と文化継承を両立するモデルとして社会実装を目指す。



上 : ファイフ 下 : リコーダー

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

【実学へのつながり】

たて笛・よこ笛の並行学習で、構造・音色理解と探求心の育成。よこ笛習得は他のよこ笛に応用可能で効率的な学習を実現。

【産業界や自治体へのアピールポイント】

祭礼・伝統音楽の担い手の育成。観光資源としての文化価値の強化。

【協力可能事項】

教材・指導法の開発。教員研修やワークショップの実施。学校・地域イベント連携の提供。

【協力希望事項】

自治体と文化継承プロジェクトの推進。産業界・教育機関との普及ネットワークの構築。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【論文】「文部省器楽教材『合奏の本』『小学校の合奏』におけるよこ笛の取り扱いに関する分析」

【学会発表】「音楽教育におけるよこ笛導入の可能性ー教育用よこ笛「ファイフ」を使用した授業の実践教育（１）ー」